

## 現代民俗学会 第23回運営委員会議事録

日 時：2013年3月16日(土)10:00～12:30

場 所：東京大学

出席者：及川、小熊、川森、武井、中野、野口、林、宮内、室井、山

(13人中10人出席、2人委任状)

### 1. 年次大会関連

#### (1) シンポジウム (研究企画委員会)

「高度経済成長期における食生活の変貌」(登壇者：表真美(京都女子大学)、西野肇(静岡大学)、村瀬敬子(佛教大学)。コーディネーター：宮内貴久、関沢まゆみ(国立歴史民俗博物館))について主旨、登壇者の旅費・謝金等は国立歴史民俗博物館より支出されること、看板設置などについて報告された。

#### (2) 個人発表 (査読担当委員)

査読委員より、下記の4人の発表決定が報告された。

発表順	氏名	所属	表題
発表①	王新艶	神奈川大学歴史民俗 資料学研究科	「現代化における華北農村の伝統的な家族觀の変遷—山東省の旧暦10月1日の「鬼節」の祖先祭祀を事例に—」
発表②	胡艶紅	筑波大学人文社会科 学研究科	「「七月半」祭礼における神・祖先・死者—中国太湖流域における大型漁船漁民の事例を中心に—」
発表③	辻本侑生	筑波大学人文・文化学 群人文学類	「高度経済成長期の焼畑山村における消費生活—複合生業と失業保険—」
発表④	石川俊介	名古屋大学大学文学 研究科博士研究員	「誰が「民俗行事」を継承するのか—富山県南砺市城端の盤持(ばんぶち)大会を事例として—」

#### (3) 確認事項

- 各委員会の総会資料：5月初旬までに総務委員会へ提出。
- シンポジウム配布レジュメ：研究企画委員会が準備。
- 看板：印刷、設置(当日朝)など研究企画と総務で連携。
- 懇親会：総務が担当。

#### (4) 当日プログラム案

年会当日のプログラムが下記の通り提案され、承認された。

時間	発表・総会・シンポジウム	
9:30	受け付け開始	
10:00	発表①	1 報告あたり質疑込み 25 分+準備 5 分
10:30	発表②	
11:00	発表③	座長=及川祥平委員
11:30	発表④	
12:00	総会	
12:45	休憩	
13:30	シンポジウム開始	
	シンポジウム休憩	
	シンポジウム再開	
17:00	シンポジウム終了	
	閉会	
	懇親会へ	

## 2. 総務審議事項

### (1) 3年以上未納会員の会員身分

昨夏、3年(2010~2012年)分の未納会員については会費振込依頼と会員身分についての文書を送った(「本会会則第8条で定めるとおり、会費を2年間滞納されると会員資格を失効することとなります。今年の12月末までにお振り込みくださいますようお願いいたします。」)

該当者に対し、年会(5月11日)を期限とした振込依頼のメールを再度送り、それでも連絡のない場合は退会とすることと決まった。

なお、今回の該当者全員について手書きの入会届を確認した。

### (2) 発表エントリーと入会について

個人発表にエントリーするに当たり現在は、エントリーし査読を受けることも会員の権利とする考え方から「エントリー時(1月末=年度末)に完納の会員」であることが求められている。

これを「エントリー時に入会」し、その段階で「次年度(=発表時)分に充てる会費」を納めるように変更するべきか提案され、審議された。賛成意見(学生会員が発表しやすくすることで会員の裾野を広げる、エントリーのタイミングが年度末であることを考慮する)と反対意見(エントリー1件であるという非積極的現況であることを厳粛に受け止める必要がある、現会員の権利を狭める)が出され、現状維持のままとなった。

### (3) 寄贈した会誌(1~4号)の研究機関・図書館のOPAC登録状況

現時点での機関発送先の49機関中32機関でヒット(欠落あり含む):登録数は増えている。また、OPACに反映されない図書室に収められる例もあると考えられる。

欠落のある図書館に対してこちらから特に申し出はせず、先方からの連絡を待つことに決まった。

(4) 会誌売り上げ冊数(報告)

	1号	2号	3号	4号
今年度売り上げ	6	4	2	3
在庫	42	55	54	62

(5) 会誌の電子公開について (前期運委からの引き継ぎ事項)

下記について承認された。

- ① 作業チームを設置して電子公開の枠組を策定、実作業（論文著者の許諾、データのアップ・管理など）に当たる。作業チームはこれまで本件に関わってきた編集および総務委員経験者を中心に組織する。今後、作業チームで検討し、その提案を運営委員会で審議し承認するというプロセスで進めていく。
- ② 総会で総務の2013年度事業として報告する。その際、電子化のポリシーを明記する。
- ③ 当座の公開対象は、会誌第1号(2009)と第2号(2010)所収の論文・研究ノートとする。

また以下のような意見が交換された。

- ・ 公開(PDFデータ保存)場所を①学会サイト(gendaiminzoku.com)、②CiNiiのいずれにするかについて、「本文の語句も検索でヒットするようにすれば①でも可能」、「②に登録するための手続き、登録後の運用のメリット、デメリットについてさらに情報収集が必要」、「①→②への以降が現実的か」。
- ・ 論文単位ではなく、研究会記録や学会記録も含め、紙媒体の廃止まで視野に入れた会誌の完全電子公開の検討。

(6) 日本学術会議協力団体への申請

総会で総務の2013年度事業として報告することが承認された。会員数100人以上、研究者による運営、年1回以上の研究集会や刊行などの活動といった諸条件はすでにクリアしている。この条件はCiNiiにて論文を電子公開する事業に参加する条件とほぼ同内容である。

3. これまでのメール審議記録(総務委員会)

当議事録の後ろ(4頁以降)に掲載。

4. 会誌5号の編集状況について(編集委員会)

編集中の会誌5号について、誌面構成、ページ数、年度内の刊行・納品が可能である旨が報告された。

5. 年度会計報告(総務委員会)

今年度予算案(昨年5月の総会に提出)と今年度決算報告をもとに会計報告がなされた。

6. 次年度計画案・予算案(各委員会)

編集委員会: 依頼原稿枠を確保し、一般投稿の増減に左右されない形で早い段階から企画の立案・原稿依頼業務を可能とするため、16~20ページ分の5万円の印刷費の増額が要望され、編集委

員による説明、審議の上、承認された。

また、会誌5号が3月末に納品されるので、年会前の4月中に発送作業、通信費の予算執行が提案され、承認された。

総務委員会：前年度決算報告・新年度予算案、電子公開の作業開始、日本学術会議協力団体への申請を総会に諮る。

研究企画委員：現時点での企画案の進捗状況が報告された。また、興味の偏りを避けるためにも、研究企画担当以外の委員からの企画の提案を受け付ける要望が出された。

## 7. その他

次回運営委員会は、夏期の研究会にあわせて開催を調整することが確認された。

### メール審議記録（2012年7月～）

#### 7月18日：寄贈先からの追加寄贈依頼への対応

寄贈先の図書館から、紛失などによる欠号を補うための追加寄贈の依頼が来た場合、OPACへの速やかな反映を条件に、応じて行くことに決まった。

（報告）上に則って、申し出のあった民博(1号)、日大(3号)に寄贈した。

#### 8月4日：以前の研究会発表者への原稿依頼について

編集委員会から出された既開催の研究会発表者への原稿依頼案に対して、研究会発表を依頼した際に提示した条件に沿って原稿依頼を行うように意見が寄せられた。

#### 11月12日：個人発表について

総務委員会より出された原案が承認されたが、3人を越えるエントリーがあった場合、会場の事情が許す限り柔軟な対応をとることが求められた。また、例年エントリー者が少ないとについて、大学院生への当会と発表機会の周知の必要が強く求められた。

#### 12月10日：書籍の寄贈（報告）

現代民俗学会第6回研究会を基にした『「20世紀民俗学」を乗り越える』(岩田書院 2012)を著者および岩田書院から10冊寄贈を受けた。1500円で販売する予定(定価は2000円+税)。

#### 12月19日：追加支出の申し合わせ改正

旧「支出の請求と承認についての申し合わせ」(2010年7月(第14回運営委員会)承認)

1. 多額な支出に関しては、事前に運営委員会の承認を経ることを原則とする。
2. 変更が予想される場合、運営委員会の開催に先行して速やかに総務に通達する。
3. 会計は総務より連絡を受け、運用の可否、及び条件について検証を行う。その際会計は、運営委員会の判断に必要な、見通しとなる内訳を適宜求めることができる。なお通達は、この検証期間を十分に加味することとする。

4. 会計は以上をとりまとめ、運営委員会にて発議を行う。

旧申し合わせは「定期的な対面の運営委員会の開催」を前提とし、その開催前に充分な時間を持って総務・会計と話を済ませておき、会計報告に盛り込むというかたちになっており、メール審議を主とする現運委の実情にそぐわなかった。

**改正「支出の請求と承認についての申し合わせ」**

1. 多額な支出に関しては、事前に運営委員会の承認を経ることを原則とする。
2. 予算案の変更、追加の予算請求については各委員長から、運営委員会の判断に必要な使途、内訳、具体的な額を明示し発議する。
3. 運営委員が支出の是非について審議する。会計担当は運用の可否、及び条件について検証を行う。その都合上、通常のメール審議の3日間では審議終了できない場合がある。
4. メール審議終了後、対面の運営委員会が開かれる際、議題として改めて挙げて、議事録に載せる。

2月7日：委員の異動（編集委員）

2月15日：年会午前個人発表のエントリーへの対応

初回の期日までにエントリー者が0人だったため、募集期間を延長した。

新入会員承認 下記3名について承認された。

氏名	所属	テーマ	区分	入会年度	承認
マイケル・フォスター Michael Dylan Foster	インディアナ大学	民俗学・文学（妖怪、年中行事、来訪神、無形文化遺産、ユネスコ、祭）	一般	2012	7/30
梅屋 潔	神戸大学大学院国際文化学研究科	社会人類学・宗教人類学・宗教民俗学・東アフリカ民族誌学	一般	2012	1/11
井口 貢	同志社大学政策学部総合政策科学研究所	文化政策学・観光文化論（専攻分野）、公共民俗学（専攻分野）	一般	2013	2/18